

わが

海・山・川の自然 × デジタルで 未来を拓くまち

20周年を迎えた由利本荘市

由利本荘市は、秋田県の南西部に位置し、西を日本海に接し、南に鳥海山、東に出羽丘陵を望み、中央を1級河川子吉川が貫流して



鳥海山と田園風景

日本海に注ぐ、海と山と川の美しい自然に恵まれた地域です。海では海水浴、山では登山やスキー、川ではボートやカヌーと、自然を生かしたさまざまなアクティビティもお楽しみいただけます。藩政時代は、亀田藩、本荘藩、矢島藩の三つの藩領としてそれぞれ岩城氏、六郷氏、生駒氏が統治し、史跡や祭事など歴史の息吹が現在に伝わっております。平成17年に旧本荘市とその周辺の7町（矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町）が合併し由利本荘市となり、令和7年に市制20周年の節目を迎えました。本年度は、「市誕生20周年記念式典」のほか、「NHKのど自慢」や「夏巡業大相撲由利本荘場所」などの記念事業を開催し、この後「松平健マツケンサンバコ

ンサート」も予定されております。

本市は、本荘ごてんまりや本荘こけしなどの工芸品や、四つの酒蔵が生み出す銘酒の数々、秋田由利牛などの特産品を有するほか、鳥海山を核とした観光誘客にも力を入れております。また、鳥海山麓では「鳥海ダム」の整備が進められており、治水・利水はもとより、新たな観光拠点としての機能も期待されております。

本市の持続可能性を高める 施策展開

本市では「DX推進計画」を策定し、これまで自治体DXへの取り組みを積極的に進めてきました。本市は1209・59km²という広大な面積を有することから、DXの促進による恩恵を大きく享受できると考えております。



移動市役所

市役所窓口でのキャッシュレス化やデジタルスポットの設置、通信機器などを備え証明書発行や遠隔相談のできる車両が集落を回る「移動市役所」の運行など、市民の利便性向上につながる取り組みを行ってまいりました。併せて、スマートフォンなどになじみの薄い高齢者のため、秋田県立大学・本荘キャンパスの学生が操作を教える「スマホ相談会」を開催し大変な好評をいただいております。また、「起業するなら由利本荘で」をキャッチフレーズに各種補助金の充実や融資に係る利子補給



プロモーション会議の市長プレゼン

など、きめ細やかな起業支援に取り組みとともに、若者が自ら企画・実践して地域を盛り上げる「由利本荘プロモーション会議」を設立するなど、若者の活躍の場の創出を図っております。

観光面では「鳥海山・飛鳥ジオパーク」の取り組みを本市とにかほ市、山形県の遊佐町および酒田市の3市1町で連携して取り組んでおります。観光振興に当たり存在感を示していくためには、誰にでも伝わる高い知名度を持つキラーコンテンツが必要であり、本市にとっては「鳥海山」がその位

置付けになるものと捉えています。そうした思いから、この市境県境を越えた4市町による広域連携を基軸に、戦略性を持った誘客促進を図っていききたいと考えております。

市長自らのPR活動

本市の情報発信は市広報紙や市ウェブサイトのほか市公式SNSなどを通じて積極的に行っておりますが、これら市役所が行う情報発信と別に、市長である私自身が自らSNSなどをフル活用して情報発信に努めており、日頃から参加した会議やイベントについてスピード感をもって投稿しております。令和7年は市街地を含めてクマの目撃情報が多数寄せられ人身被害も発生するなど切迫した状況であったため、SNSを通じた市民への注意喚起も行ったところです。

またケーブルテレビと、そのYouTubeチャンネルにおいて、市の施設や観光名所などを紹介する「はっしん!由利本荘!!」、市の主要な施策や新たな取り組みを紹介する「Open!湊市長に聞く」の二つの番組でさまざまな情報を発信しております。

デジタル技術が大きく進歩した現在、距離やエリアの大きさにかかわらず広範囲に情報を届けることが可能となっており、こうした取り組みは単なる本市のPRだけでなくとどまらず、移住・定住促進や関係人口の増加にも大きく寄与するものと考えており、今後も引き続き自ら率先して情報発信を行ってまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 1209・59 km²
- ◆ 人口 6万9064人
- ◆ 世帯数 3万785世帯

〔将来都市像〕「市民一人ひとりが希望を叶え自分らしく暮らすまち」このまちで私らしく生きる。このまちにずっと暮らす。このまちをもっと好きになる。」

〔まちの特徴〕県内一の面積を有し、夕日の美しい「日本海」、秀峰「鳥海山」、1級河川「子吉川」など風光明媚な自然に囲まれたまち

〔市町村合併〕平成17年3月22日、本荘市、矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町の1市7町が合併

〔特産品〕秋田由利牛、日本酒、本庄うどん、本庄こてんまり、本庄こけしの滝、鳥海山のおもちゃ館、ハーブワールド秋田、民俗芸能伝承館まいーれ

〔イベント〕菖蒲カーニバル、本庄川まつり花火大会、子吉川レガッタ、Mt.鳥海バイシクルクラシック



由利本荘市長 湊 貴信



「はっしん!由利本荘!!」収録の様子(鳥海ダムにて)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

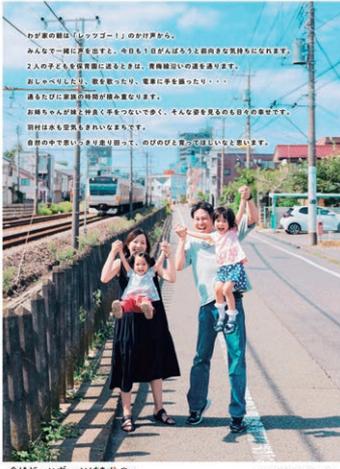
「東京で子育てしやすいまち」 市民・事業者・行政のみんなで取り組む

羽村市について

羽村市は、東京都の都心部から西に約45km、武蔵野台地の一角、多摩川の河岸段丘上に位置している、行政面積9・90km²の全国で7番目に小さな市です。区画整理事業による製造業の誘致と職住近接のまちづくりで発展してきました。

「東京で子育てしやすいまち」のシテイプロモーション

本市では、「東京で子育てしや



はむら家族プロジェクトで撮影したご家族

すいまち」をブランドメッセージに、定住人口の増加を目的とするシテイプロモーションに取り組んでいます。

このブランドメッセージは、「人の温かさ」「都会の便利さ」「自然の豊かさ」がコンパクトな市域に凝縮されていて「子育てしやすい」と多くの市民が感じている思いをまとめたものです。この思いを、市民の主体的な取り組みと市民・事業者と行政が連携した事業などにより市内外に発信するシテイプロモーション事業を実施しています。

このシテイプロモーション事業により、市民のまちに対する「誇り」「愛着」「共感」に当たるシビックプライドの醸成にもつなげ、市民の羽村市に住み続けたいという定住意向を深めています。

主な事業として、平成28年度から取り組んでいる「はむら家族プロジェクト」と「はむら魅力発信市民記者」を紹介します。

「はむら家族プロジェクト」は、毎年15組の市内で子育てを楽しんでいる「はむら家族」に主役として参画していただいています。はむら家族の市内のお気に入りのスポットで、プロのカメラマンが撮影した家族写真に、お気に入りのスポットにまつわる家族のエピソードや羽村市で子育てする魅力をメッセージにまとめ、家族写真と合わせて愛情はむら写真展（パネル写真展）や魅力発信・子育て情報サイト「羽やすめ」により発信しています。



市民記者の取材中の1コマ

「はむら魅力発信市民記者」は、市民が記者となり、自身が感じている羽村市に住んでいるからこそ分かる、暮らしやすさ・子育てのしやすさなどの魅力について、取材から執筆までを自ら行い、記事にしてwebマガジン「はむらぐらし」で発信しています。こだわりのパン屋さん、あかちゃん休憩室を設置している店舗の連載、羽村の水に関わるスポットや取り組み、市内で新たな事業を始めた人など、市民記者ごとにさまざまな切り口で記事を執筆しています。

どちらの事業も、①市民が主体的に参画する、②市民目線で羽村市の魅力を取り上げ発信することでブランド化が推進されていく、③市民の主体性と市内外への発信によりシビックプライドの醸成につながる、というサイクルが生まれ、シテイプ



羽村市動物公園のレッサーパンダ たけのこ

ロモーションおよびシビックプラ
イドの両面に効果があります。
こうした取り組みが認められ、
シティプロモーションアワード実
行委員会が主催する「シティプロ
モーションアワード2023」で
金賞を受賞しました。
また、市民と共に進めていくた
めの大前提として、市職員がシ
ティプロモーションの視点を持っ
て日々の業務に取り組むことが欠
かせません。そのため、職員を対
象とした「シティプロモーション
実践研修（自治体マーケティング
研修）」を実施しています。転入
促進、転出抑制を目指すことのみ
ならず、自身の業務はどんな方々
を対象に行っているのか、どのよ
うな満足の提供を目指すのか、い
わゆる市民志向による行政サービ
スの提供をマーケティングの手法
を通じて学びます。近年は、入職



約35万球のチューリップ（根がらみ前水田）

2年目の若手職員が受講する研修
に位置づけており、市職員に市民
志向、マーケティング志向が浸透
してきています。
子育てしやすいまちづくり
本市は、令和2年度に、乳幼児
健康診査などの母子保健事業を子
育て世代包括支援センターに移管
し、他の自治体に先駆けて母子保
健と児童福祉を一体化した妊娠期
から子育て期にわたる切れ目のな
い伴走型の相談支援体制を整備し
ました。令和7年4月の「羽村市
こども計画」のスタートに併せて
「羽村市こども家庭センター」を
設置し、これまで取り組んできた
知見を生かし、母子保健と児童福

社の連携体制を深化し、より充実
した支援を実施しています。
この他にも、市内小・中学校の
給食無償化の実施、市内社会福祉
法人の児童発達支援センター開所
への支援、高校生等医療費助成事
業などに取り組んでいます。ま
た、市内における市民の「居場所
づくり」にも取り組んでおり、公
園を拠点に、市民と連携してさま
ざまな世代が自身の手で居心地の
良い場をつくる「ポットラックプ

プロフィール

- ◆ 面積 9・90km²
- ◆ 人口 5万3955人
- ◆ 世帯数 2万6982世帯

〔将来都市像〕 まちに広がる笑顔と活
気 もっとくらしやすいまちはむら
〔まちの特徴〕 都心から1時間の距離
に、多摩川や武蔵野の面影を残す自然
と、住宅地、工業地域がバランス良く
配置されたまち



羽村市長
橋本弘山



〔特産品〕 地下水100%の独自水道、
チューリップ畑で取れる羽村米、自動
車、精密部品
〔観光〕 羽村市動物公園、羽村市郷土
博物館、玉川上水および羽村堰、まい
まい井戸、旧下田家住宅
〔イベント〕 はむら花と水のまつり（さ
くら祭り、チューリップ祭り）、はむ
ら市民と産業のまつり

プロジェクト」や子ども食堂の活動
周知に加えて、児童館の開館時間
の延長による中高生の居場所づく
りの実施を予定しています。
このように、本市は、市民・事業
者と行政が、それぞれの主体的な
取り組みと連携した事業を実施す
ることで、魅力発信と子育てしや
すいまちづくりに取り組んでいま
す。今後もオールはむらで「東京
で子育てしやすいまち」を推進し
ていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

池田市いけだ（大阪府）

池田市長

瀧澤智子たきざわともこ

わが

「『だったらいいな』を叶える いけだ」 の実現に向けて

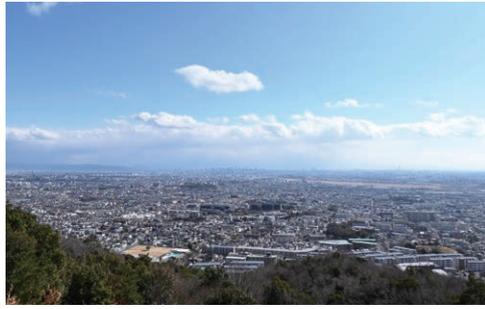
事始めのまち

池田市は、大阪府の北西部に位置し、大阪中心部の梅田から電車で約20分。京都・神戸まで車で約60分。市域には大阪国際空港もあり、交通の利便性が高い上、市域の西側に猪名川、中央に五月山を有する水と緑に恵まれたまちです。

江戸時代には酒造り、細河郷の植木をはじめ、近郷の物資の中継地として栄え、明治時代には国の

出先機関のほか、大阪

府池田師範学校（現大阪教育大学）が設置されるなど、地域における政治、経済、文化の中心地として発達しました。そして、明治43年の箕面有馬電気軌



五月山の展望台から市内を一望

道（現阪急電鉄）の開通などにより、大阪都市圏の住宅都市として

発展し、昭和14年4月の市制施行から87年を迎えます。

小林一三氏によるわが国最初の電鉄会社による郊外型分譲住宅の開発や日本の食文化のみならず、世界の食文化に大きな影響を与えた安藤百福氏によるインスタントラーメンの発祥の地であることから「事始めのまち」とうたっています。

ウオンバットと暮らすまち

本市には、カップスードルミュージアム大阪池田、ダイハツ史料展示館ヒューモビリティワールド、逸翁美術館、落語みゅーじあむ、がんがら火祭り、ウオンバットに会える動物園などのコンテンツがあふれています。



新しく仲間入りしたウオンバット「ソラ」



新しく仲間入りしたウオンバット「リク」

平成2年、オーストラリア・ローストン市から五月山動物園にやって来たのが「地上のコアラ」と呼ばれるウオンバット。姉妹都市提携60周年を迎えた令和7年10月、2頭のウオンバットが新しく仲間入りし、この2頭の愛称を募集したところ、全国から2737件の応募があり、「リク」と「ソラ」に決まりました。

五月山動物園は、日本で2番目に小さい動物園でありながら、西

官民連携によるまちづくり

現在、「オーストラリアの森と草原」をテーマに生息環境を表現した新たな動物園ヘリニユールを進めています。

持続可能で魅力的なまちづくりを進めるためには、企業をはじめ、多様な主体との連携が必要と考えられています。

そのため、「SDGs推進プラットフォーム」や「官民連携デスク」を設置し、これらによる協定の締結や連携事業の実施など、互いのリソースを生かし、地域課題の解決に向けた取り組みを進めてきました。これまで、池田泉州銀行、ソフトバンク、阪急阪神ホール



イベント「おさんぽマルシェ」の風景



「広報いけだ」令和8年2月号表紙と特集記事

その取り組みとして、市役所に子育て応援駐車場を整備したことや子ども自身が自分の悩みや困りごとを相談できる専用ダイヤルを開設し、「18歳までの子どもなんでも相談窓口」という名称で広く周知しています。また、私が市立小学校を訪問し、子どもにとって身近なテーマについて意見を聞く

デインクス、KDDI、ローソンをはじめ、15件の包括連携協定を締結しています。

「いけだ駅前活性化プロジェクト」では、市民や学生、地元企業、本市職員などが参画する「いけだエリアプラットフォーム」により、池田駅前の将来像を示す「いけだ駅前未来ビジョン」を策定しました。このビジョンを基に、「駅まち空間」をより居心地よく、歩きたくなる「まちなか」にするため、社会実験の場として「おさんぽマルシェ」の開催をスタート。令和7年11月の第5回は、これまでの実験結果を踏まえ、官民連携により誕生した池田駅南広場「KUREP

A(クレパ)」での初めての開催となり、官民連携によるまちづくりの「今」を体験していただきました。

「こどもまんなか社会」を目指して

子どもたちと子育て世帯を応援する取り組みを進めるため、令和5年11月に「こどもまんなか応援サポーター」宣言をし、令和7年3月に策定した「こども計画」の中で、「こども発 みんなでつくるいけだの未来」を基本理念とし、子どもを社会の中心に据え、子どもの意見を聞きながら取り組みを進めることで、「こどもまんなか社会」の実現を目指しています。

場を設けました。斬新なアイデアがたくさんあり、子どもの意見を反映した施策を進めます。

このほか、学校給食費の無償化、卵子凍結費用の助成、多胎妊産婦・多胎児家庭への支援など、「次世代育成予算」の充実に注力していきます。

チフリーズとしてスタートした「第7次池田市総合計画」では、目指すまちの将来像として「笑顔あふれる豊かな暮らしを未来につなぐ みんなが大好きなまち」としました。この「みんな」には、住民をはじめ、通勤、通学、観光などで本市を訪れる人々、本市のファンやサポーターのような人々を想定し、それぞれの豊かな暮らしや関わりを支えるまちづくりを進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 22・14 km²
- ◆ 人口 10万2819人
- ◆ 世帯数 5万1028世帯



池田市長 瀧澤智子

〔将来都市像〕
「だったらいいな」を叶える いけだ
笑顔あふれる豊かな暮らしを未来につなぐ みんなが大好きなまち

〔まちの特徴〕豊かな自然と歴史・文化が調和するまち



〔特産品〕細河地域の植木、池田酒、池田炭、軽自動車

〔観光〕カップヌードルミュージアム、大阪池田、呉服神社、小林一三記念館、池田城跡公園、五月山動物園、都市緑化植物園

〔イベント〕いけだ春団治まつり、花菖蒲まつり、がんがら火祭り、ウオンバットの日、猪名川花火大会、おさんぽマルシェ、社会人落語日本一決定戦

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人とつながり、未来を創る 住みよさ日本一のまち・由布市

はじめに

由布市は、大分県のほぼ中央に位置しており、北部から南西部にかけては由布岳や黒岳など1000m級の山々が連なり、由布岳の麓には標高約450mの由布院盆地が形成されています。そして、これらの山々を源とする河川が大分川を形成し東西に流れています。気候は、標高の高い由布院盆地に代表される西部や北部では気温の日較差が大きく、冬には最低気温が氷点下になることも多く、積雪に見舞われる内陸性気候と、中央部から東部にかけての標高の低い地域の、雨が少なく温暖な瀬戸内気候とに二分されます。



由布岳と辻馬車

農林業は、米を中心に野菜、花卉、果実の栽培や畜産が盛んですが、農家数・農家人口共に減少している状況です。観光業については、温泉や豊かな自然などに恵まれており、特に湯布院地域は保養温泉地として多くの観光客にご来訪いただいています。

育て 元気にいきいきと 地域で育む由布っ子

本市は、大分市や別府市に隣接する高い利便性、由布院温泉などの観光資源、そして豊かな恵みをもたらす穏やかな農村地帯という、三つの異なる個性が調和したまちです。雄大な由布岳に見守られながら、子どもたちが伸び伸びと感性を磨けるよう「子育てしやすい環境づくり」を市政の最優先事項に掲げてきました。

これまでも高校生までの医療費の無償化、0歳児・1歳児の全ての子どもを対象におむつクーポン券の配布などに取り組み、国や大分県の平均を上回る合計特殊出生率を維持しております。また令和7年度からの取り組みとして、合併当時から低い水準を維持してきた保育料の無償化、幼小中学校の学給食食を無償化、認可保育園などに通う4、5歳児の副食費の助成を開始するなど、子育て世帯を応援する取り組みをさらに進めています。

本市は、全国的に有名な「由布院温泉」を有し、令和6年度には国内外から約430万人の観光客にご来訪いただいています。多くの方々に人気の「由布院温泉」ですが、地域住民による観光まちづくりの歴史は古く、50年以上前から持続可能な保養温泉地づくりに取り組み、「素晴らしい景観や環境、豊かな自然と温泉、そしてそこに住む人々の暮らしこそが最大の観光資源である」として考えを引き継いでいます。そのことが、美しい景観の中に静かにたたずむ癒やしの温泉地「由布院」の根強い人気につながっていると思います。



金鱗湖

本市が目指すのは、豊かな自然と温かな地域社会の中で、安心して子どもを育てる未来です。

本市には「由布院温泉」だけでなく、「湯平」「塚原」「庄内」「挾間」と五つの温泉地があり、総称「湯布院温泉郷」として国民温泉保養地に認定されています。また、名水百選にも選ばれた「男池」や、東洋のチロルと称される「由布川峡谷」など、温泉の他にも自然豊かな観光スポットが多く存在します。

こうした観光資源をさらに磨き上げ、温泉を中心に本市を世界に発信するため、令和7年12月に、隣接する別府市と「世界一の保養・大温泉郷協定」を締結しました。日本を代表する温泉観光地である別府市と共に、お互いの特性を生かしつつ、世界一の温泉観光都市として発展するよう、取り組んでいきたいと考えています。



湯平緊急避難所



湯平緊急避難所 (空撮)

官民一体となった湯平地域緊急避難所整備

由布市湯平地域においては令和2年7月豪雨の際、河川の氾濫により車で避難途中の住民4人が犠牲となり、また湯平地域へ通じる道路も広範囲にわたり被災したことで地域が孤立状態となりました。

この事態を受け地域住民と行政で議論した結果、近年の記録的な豪雨災害などが発生した際の急変する気象状況に鑑み、指定避難所まで移動することが困難な状況に直面した場合の一時避難所として湯平地域に緊急避難所を建設することとなりました。緊急避難所が完成するまでの間は、地元観光協会や旅館組合と協定書を締結し、

高台の旅館を緊急避難所として活用する応急対策を講じ、建築に際しても地域住民と建設委員会が協議を重ねながら、官民一体となり緊急避難所を完成させることができました。今後、本施設は緊急避難所としての活用はもとより、本市から災害で犠牲者を出さないための防災・減災活動にも大いに活用してまいります。

結びに

令和7年は本市が誕生し20年の節目の年でした。今後、10年・20年の未来を見据え、市民の皆さまとの一体感の中で「安全・安心に暮らせる市民生活を第一に」という強い決意の下「住みよき日本一のまち」を目指し取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 319.32km²
- ◆ 人口 3万3501人
- ◆ 世帯数 1万6472世帯

〔将来都市像〕人とつながり、未来を創る 住みよき日本一のまち・由布市

〔まちの特徴〕宅地化が進む地域と豊富な水資源や風光明媚な自然に囲まれた地域を持ち、神楽などの古き良き伝統文化を大切にする全国屈指の温泉観光地

〔市町村合併〕平成17年10月1日 挾間町・庄内町・湯布院町の3町が合併



由布市長
相馬尊重



〔特産品〕梨・梨製品、千両なす、いちご、トマト、ほうれん草、ゆず、ブルーベリー

〔観光〕由布川峡谷、男池、黒岳、由布岳、金鱗湖、湯平温泉の石畳、塚原高原

〔イベント〕湯布院映画祭、由布院牛喰い絶叫大会、庄内神楽祭り、はさまきちよくれ祭り、ゆふいんSPA健康マラソン大会



庄内神楽

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。